

# 1月の果実の見通し

平成30年12月21日現在  
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森 長野 山形 ほか	5,586	115%	5,832	292	やや安	293	181	3.2%	青森県産の貯蔵品中心の販売。年内のりんご類は天候被害などもあって前年と比べて入荷減の状況が続いたが、1月からの出回り量は前年を上回る見込み。旧正月需要で1月半ば頃までは輸出向けの取引が活発なこともあり上位品は引き合い強いものの、例年と比べて下等級品の発生が多いために全体の価格としては前年を下回るかもしれない。
いちご類	栃木 福岡 静岡 佐賀 ほか	3,780	100%	3,620	1,549	やや安	1,439	-	-	12月初旬までは天候が良く生育順調で出荷量も前年を上回っていたが、12月上・中旬より気温が下がり曇天になり寒波も入り日射量も少なく前進出荷をしたことで出荷量は伸びず減少した。1月は1果房から2果房へと切替わり1月下旬から2果房の出荷ピークに入る。1月上旬の天候にもよるが各産地でバラつきが出る出荷になりそう。また、2果房出始めは各品種大玉が多くなる。
キウイ	和歌山 福岡 愛媛 ほか	651	85%	723	476	やや安	463	-	-	国内産地はいずれも梅雨明け以降の干ばつにより小玉傾向で生産量は前年を下回る見込み。需要期である春先の数量を確保するため年内は顔見世程度の出回りであったが、当初残量が多いとの情報であったニュージーランド産の切上がりが品イタミ等により早まったことで大玉中心に引き合いが出始めた。1月からはさらに国産品の販売が活気を帯び、価格も前年を上回る見込み。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	10,924	140%	14,390	377	安	283	-	-	30年産みかんは糖度高く食味は良いものの、台風や豪雨などによる被害や暖冬傾向で気温の高い状況が続いたために体質の弱いものが例年より多く、当初の出荷計画量を下回る産地が続出。出荷ペースも前倒し気味で12月上旬にはほぼ早生品種が終了した。11月半ば以降、全体的に荷動きは停滞し始めたものの、銘柄によっては品薄感から引き合い強まる場面も見られた。年明け1月からは静岡県産「青島温州」中心に長崎・愛媛産の出回りとなる。前年は静岡県産が裏年で非常に少なく、年内からの高値が継続されたが、本年は潤沢な入荷で不足感はない見込み。価格は前年比では大幅安だが、平年比ではやや高め。
干し柿	山梨 長野 福島	252	105%	307	1,674	並	1,663	3	1.2%	一部の産地は不作傾向にあった渋柿だが、全体には多く皮むき作業も早くから始まり出荷量は10月、11月と多く12月の出荷量も前年、台風の影響で原料が少ないなかでの出荷で今年は前年の130%台だが一昨年からは同じ出荷量となる。年明け1月の販売は福島産「あんぽ柿」中心で、例年以上の出荷量。長野産「市田柿」は年内に比重を置いた出荷とはいえ、例年並みの出荷量となる。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)